

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	その他		事業名	広域的連携モデルの構築事業
担当	市)企画部企画課 中村・松原 (211-2192)			
全体計画（当初）				
事業内容	北海道の経済的自立及び生活の質向上を図るため、本市は広域的連携を推進していく必要がある。そこで、地域独自の資源を活用した先進的・実験的な取り組みを実践し、道内の先導的役割を担うとともに、地域同士のつながりを強化することを目的として、道に提案した道州制特区の先行的取組みである5テーマのうち、次の3テーマについて具体的に事業を実施する。 テーマ1: サマータイムの社会実験(事業:「サマータイム制度推進事業」) テーマ2: 北大R&B構想推進(事業:「大学成果活用推進事業」) テーマ3: 北の食ブランドで産業と文化を創造(事業:「食産業振興プロジェクト事業」「美味しいまちづくり調査事業」) 「大学成果活用推進事業」および「食産業振興プロジェクト事業」については経済局産業振興部所管		<年度別の事業内容>	
			<p>【サマータイム制度推進事業】 H16 札幌商工会議所の実証実験に参加 H17 規模・期間を拡大して実験に参加、市民理解促進のための事業実施 H18 さらに実験の規模・期間を拡大し、ライフスタイルへの効果・影響を検証</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 H16 モデル地区を設定、地域から生まれる食への取組みのモデルケースとして事業を実施。H17～18 事業を継続実施(3ヶ年で終了)、随時新たな事業メニューを追加。</p>	
事業内容(量・場所・規模等)	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)	
	<p>【サマータイム制度推進事業】 ・札幌商工会議所が中心となり実施したサマータイム実証実験に参加。 ・市役所としては総務・企画調整・環境・経済の4局において7月の1カ月間実施し、227人が参加。 ・サマータイム導入についての賛成者が75%を超え、北海道の地域特性を活かした制度として新たなライフスタイル創出の可能性が確認された。</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 ・食をテーマに、商店街、地域住民(町内会等)、学校(小学校、専門学校、大学)、行政(区役所等)などの多種多様な団体のネットワーク化を図り、その協働により事業実施。 ・モデル地区を地下鉄北24条駅周辺に設定。 ・具体的内容:『地域住民による野菜と花の栽培実践』、『食のブランドづくり(北海さつま揚げ、24コロッケ)』、『食育の実践(子供のニョッキづくり、食の安全に関する講演会、有機野菜に関するパネル展)』など</p>		<p>【サマータイム制度推進事業】 ・前年度に引き続き実証実験を実施。 ・前年度の実験結果を踏まえ、実験の規模・期間を大幅に拡大し、17局で1510人が、8週間実施した。 ・前年度の実験で導入にあたっての課題とされた、睡眠不足、体調不安の問題に関して独自の調査を実施。賛成者比率の高さ、ライフスタイルに与える影響、参加期間の長短による体調への影響等を確認。 ・新たに参加した北海道、道内の他の自治体などとの連携により、サマータイムの制度理解の促進と市民議論の喚起を図る。1年先行した本市の取組みを紹介するとともに、課題、問題点の確認を行う。</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 ・前年度に続き、地下鉄北24条駅周辺におけるネットワークの拡充を図るとともに、食に関する事業を実施。 ・具体的内容:『食育に関する取組(食育パネル展、親子体験農園、有機野菜の販売)』、『食リサイクルに関する取組(イベント時に出る生ごみや家庭から出る生ごみの堆肥化)』、『食の</p>	
事業内容(量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)		評価(成果)	
	<p>【サマータイム制度推進事業】 ・前年度に引き続き実証実験を実施。 ・期間は前年度並み。参加人数は、新たに区役所も参加対象としたことから、前回は約600人上回る2140人となった。 ・制度導入の賛否については、前年の結果と大きな差はなく、サマータイム制度に対する評価は定着している。 ・制度の本格導入については、全ての市民に影響を与えるものであり、1万人市民アンケート等を通じて、市民理解の促進と意識の確認を行った。</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 ・調査事業の最終年度として、「食をテーマにしたまちづくりの定着」をテーマに実施し、過去2か年の課題の解決や今後の継続性について検討した。 ・具体的内容:『食育に関する取組(親子体験農園、有機野菜の販売)』、『食リサイクルに関する取組(イベント時に出る生ごみや家庭から出る生ごみの堆肥化)』</p>		<p>【サマータイム制度推進事業】 ・実証実験は、全道に拡大し、北海道の地域特性を活かした制度、新しいライフスタイル創出の可能性を秘めた制度として市民・道民理解が広がりつつある。</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 ・地域での食への取り組みを通して、地域に多様なネットワークができたことや、地域の活動が食以外の動きにも広がったことなど、拠点の活性化につながりつつある。</p> <p style="text-align: center;">課題</p> <p>【サマータイム制度推進事業】 ・実証実験は、本来のサマータイム制度ではないという限界、それと同時に実験ならではの課題を抱えている。 ・自治体と民間団体との間には、サマータイム制度に求める効果に差があり、そのことが連携事業実施の障害になっている。</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 ・活動を実践するための人手不足などが課題として挙げられている。</p>	
19年度以降の方向性・事業の予定				
<p>【サマータイム制度推進事業】 ・実証実験は18年度までで終了する予定であるが、北海道らしいライフスタイル創造をめざした新しい時間活用の手法について、引き続き検証を進めていく予定。</p> <p>【美味しいまちづくり調査事業】 ・平成19年度は事業費は掛けないが、地域における活動の継続性を検証する予定。</p>				

